

第65回卒業式を終えて

沃野

学校教育目標

- 自ら学び、考え、実践する生徒（知）
- 心豊かで、自他を尊び、思いやりのある生徒（徳）
- 健康で、根気強く、たくましい生徒（体）



1,2年生による卒業式前準備の様子



受験当日の昼食時間

3月8,9日の両日、沖縄県立高等学校の入学検査が行われました。←受験生のつかの間の休憩タイム…学校ではその間、1,2年生が先輩たちの卒業式に向けた準備が急ピッチで進められました。会場装飾で式を盛り上げるため、一所懸命、掲示物(メッセージ)作成に励んでいました。



生徒会主催3年生を送る会



送る会終了後は、後輩から先輩へのねぎらいの言葉、3年生から担任・副担任へ感謝の気持ちが伝えられました。



3月11日「3年生を送る会」を生徒会が企画してくれました。しっぽとりゲームと五色綱引きによる4チーム対抗戦!! 全力をかけた戦いが繰り広げられました。2つの種目とも勝つために、各チーム作戦を練り、先生たちを巻き込んだ総力戦で大盛り上がりでした。

15日高校入試合格発表

洋希、正和、脩太、梶己、侑音、涼、和歌子、一ノ輔、はるかさん高校生活ではみんなの“絆”を糧に頑張ろう!

**卒業&高校全員合格
おめでとう**



第65回卒業式

式辞

春の息吹が感じられる今日の佳き日に、竹富町教育委員会より 前泊 竹孝様をはじめ、多数のご来賓並びに地域の方々、保護者の皆様のご臨席を賜り、令和3年度 第65回卒業式「夢は夢で 夢らしく 突き進め！君だけの 物語を」のテーマのもと、ここに盛大な卒業式が挙行できますことを心より厚く御礼申し上げます。

ただいま証書を手にした、10名の卒業生の皆さん ご卒業おめでとうございます。

私の赴任当初は、皆さんとの二年ぶりの再会で、時の流れはなんと早く、その成長ぶりに驚かされたものです。

さて、本校には、素晴らしい校訓「自主・親愛・努力」に加えて、本校生徒会が掲げるモットー「礼儀・団結・責任」があります。卒業生の皆さんが、これらをどれほど意識したのでしょうか。船浦中学校の「最高学年」として、本校の歴史と伝統・学校文化のよさを継承し、さらによりよい校風を築いてくれました。二学年、一学年の後輩たちに、船中生としての誇りや模範を示してくれたことに感謝で一杯です。

まず、生徒会長としての様々な挑戦、持ち前の明るさとさりげない優しさを発揮した洋希さん、一度自分で決めたら、周りに振り回されることなく全力を傾けられる強さをもった正和さん、まさか数学が得意な教科になるとは、持ち前のポジティブさで勉強に向き合った脩太さん、時にはみんなを盛り上げ、みんなをまとめ、何事にもひた向きに努力を重ねる昊己さん、不安に負けずに努力を重ね、自分に向き合い 甘やかすことなく頑張った侑音さん、キャプテンとして八重山地区卓球大会優勝に貢献、自分のできることに全力で取り組んでいた涼さん、どんな時にも努力を惜しまず、周りに流されない芯の強さを見せた和歌子さん、苦手な作文に取り組みながら、級友のサポートをたくさんしてくれた一ノ輔さん、持ち前の明るさに加え 受験を通して培った「自分もできる」という自信が新たな強みとなった涉さん、「簡単じゃないけど伸びるためには本気になる」と目標に向かって向上心を持ち続けたはるかさん、改めて卒業おめでとうございます。そしてありがとうございます。

昨年十二月に三学年で行った小中連携の道徳科研究授業の中で、卒業を前に九年間共に過ごした仲間はこれからの巣立ち「島立ち」にあたっての「支え」であるとの発言がありました。学級の絆を深め、認め合う集団であることが、頼もしく、嬉しく、安心した気持ちになりました。と同時に、自信をつけ、自己肯定感や意欲を高めることに繋がったと考えます。まさにそのことを体現してくれたのが、八重山郡内で実施した修学旅行を謳歌する姿、炭焼き事業及びチャレンジビジネス、三大多行事の西表島横断やスポーツフェス等をはじめとする学校行事で示した、「人を支え 人に支えられる」という覇気のある姿でした。

ここで、今なお続くコロナ禍の中、たくさんの賞に輝き明るい話題となった野球界で有名な二刀流の大谷翔平選手のエピソードを紹介したいと思います。大谷選手は大リーグに行く前にある新聞記者から次のような質問をされました。「大リーグで成功する自信はありますか？」これに対して、大谷選手は、「僕にとっては成功するとか失敗するとかは関係ない。やってみることが大切です。」と答えています。本校が生徒に育みたい三つの力に、「自分で考える力」「つなげる力」「チャレンジする力」があります。その一つ「チャレンジする力」は、やる前から、結果を考える必要はないのです。とにかく、挑戦する、やってみることが大切なのです。チャレンジする経験が自分を成長させ、未来を豊かにするのです。うまくいかないときは、うまくいくためにはどうすればよいのか考えます。

「チャレンジ」この言葉を胸に、何事にも挑戦して行って欲しいと思います。

次に、在校生の皆さん、卒業生が築いたよき校風と伝統をさらに発展させることが卒業生の後を引き継ぐ皆さんの役割です。心の通った温かい雰囲気も継承し、認め合いながら、夢や志に挑戦していきましょう。新3年生を中心に、全員で協力し、新たな実りのある中学校生活を築いていきましょう。

最後に、今日まで、お子様を心から慈しみ、温かく見守り、育ててこられた保護者の皆様、「お子様のご卒業、誠におめでとうございます。」三年間の本校に対する皆様のご理解やご協力に、感謝申し上げます。

それでは、卒業生がこれからの人生で、中学校で培った、自己肯定感、人への思いやり、覇気のある行動をもとに、何事にも失敗を恐れず挑戦していくことを心から願い、式辞といたします。

子供たちの晴れの門出に多くの方のご臨席を賜りました。御礼もうしあげます。

令和4年 3月12日
竹富町立船浦中学校
校長 宮城 裕子

*成功する秘訣を教えてほしい、どうすれば夢を実現することができますかとよく人から尋ねられる。自分でやってみることだと私は答えている

by - ウォルト・ディズニー -